

ライフラインを維持するための上下水道部の取り組み

問合せ 市上下水道部経営企画課 (☎43-2169)

適切な設備投資を進めています

(1) 愛国浄水場の更新

釧路市街地と釧路町の一部に水を供給する唯一の浄水場である愛国浄水場は、昭和34年の供給開始から60年以上が経過しています。

平成17年度から平成18年度に実施した耐震調査の結果、耐震補強が必要と判定されましたが、耐震補強には浄水場を休止しなければ工事ができないことや、大幅な延命化が期待できないことから、愛国浄水場を新しく建て直すこととして、現在工事を進めており令和7年度に完成する予定です。

(2) 老朽化した水道管の更新

市街地の拡大や人口の増加などに伴い、短い期間で整備された水道管は、今後、順次耐用年数を迎えることになります。

老朽化した水道管の更新を進めて行かなければ、破裂などの事故により、安定的に水を送ることができなくなる恐れがあることから、「釧路市水道管路更新基本計画」を策定し、年間約16億5,000万円をかけて、老朽化した水道管を計画的に更新していくこととしました。

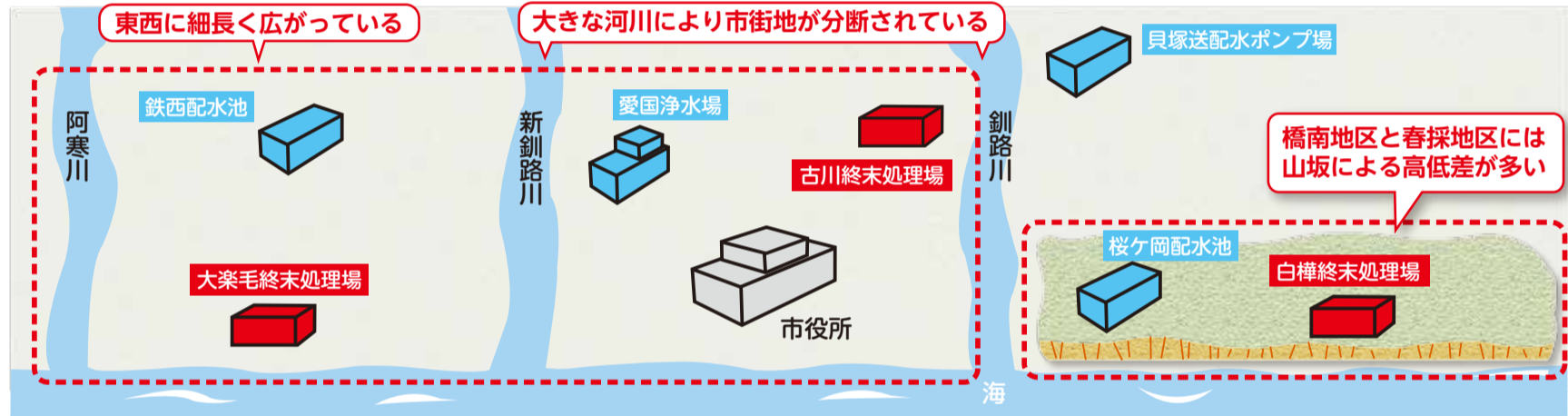
(3) 下水道施設の更新

処理場やポンプ場などの下水道施設には、多くの機械設備があり、順次耐用年数を迎えることから、更新を進めています。

下水道管についても、老朽化が進むことから、管路ごとの状態を把握する調査を計画的に行い、適切に更新していきます。

地形的要因が料金に関係しています

釧路市の地形の特徴として、市街地の大部分が東西に細長く広がっていることや、東部地域に山坂が多いことが挙げられます。また、釧路川と新釧路川の大きな河川により市街地が3つに分断されています。



(1) 水道料金との関係

愛国浄水場が取り入れている新釧路川の水は、釧路湿原の中を流れてくることから、ミネラル分などの有機物が含まれており、浄水処理が極めて難しい水質となっています。この水を水道水として提供するには、多くの薬品を使用しなければならないことから、他の都市と比べ、そのための費用が多くかかっています。

また、市街地に平地が多く、浄水場できれいにした水を送るためには、ポンプによる圧送をしなければならず、電気代（動力費）も多くかかっています。

(2) 下水道使用料との関係

下水道は、水を運ぶために自然流下方式（管の傾きを利用して流す）を採用しています。しかし、市街地は平地が広いので、傾きをつけられない区域があり、ポンプで水をくみ上げます。このため、市街地には9つのポンプ場が必要となっています。

また、河川により分断された市街地には3つの処理場が必要となり、他の都市と比べて処理場とポンプ場にかかる費用が多い傾向となっています。

